



実践研修（ミニトマト栽培）中の研修生

## 【特集】

# これからの農業に 共に挑む。未来を創る。

—農業経営者育成学校「SEADS(シーズ)」開校！

Shonai  
Ecological  
Agri  
Design  
School



# SEADS

○問合せ 本所農政課 ☎25 - 2111内線576

新潟県 農業経営者育成学校



13人の第1期生



開校式（5月12日）

農業の担い手を育成するため、産学官が連携して整備を進めてきた農業経営者育成学校「SEADS(シーズ)」(以下SEADS)が4月10日に開校しました。

平成31年3月に県から「旧いこの村庄内」を取得し、宿泊兼研修施設としてリノベーション。今年3月に完成したばかりの真新しい校舎で、首都圏を中心に県内外から集まった13人の第1期生が座学と実践による2年間の研修をスタートさせています。「農業の人材育成・確保に関する協定」に基づいて本市、JA鶴岡、JA庄内たがわ、山大農学部、東北芸工大、鶴岡高専、庄内農業高校、ヤマガタデザイン(株)の8者が連携して研修生を支援していきます。

今回の特集では、SEADSによる農業人材育成の取り組みや研修の様子、一般公開講座等を紹介します。



# 本市農業の現状とSEADS開校の背景

## 1. 農業は本市の基幹産業

農業産出額は約 **326** 億円

県内 **1** 位！ 東北 **3** 位！ 全国 **25** 位！

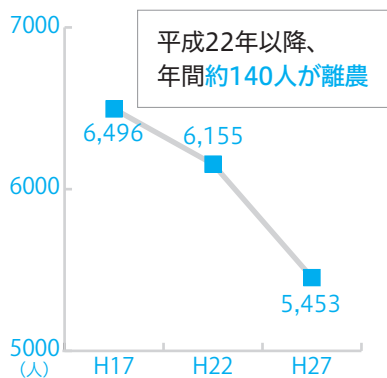
出典：農林水産省平成30年市町村別農業産出額（推計）

山・里・海の豊かな自然環境で四季折々の食材が育まれ、年間を通じて多様な食文化を楽しむことができる本市は、日本で唯一ユネスコ食文化創造都市に認定されています。農業は豊かな食文化を支える基盤であり、本市の基幹産業の1つです。



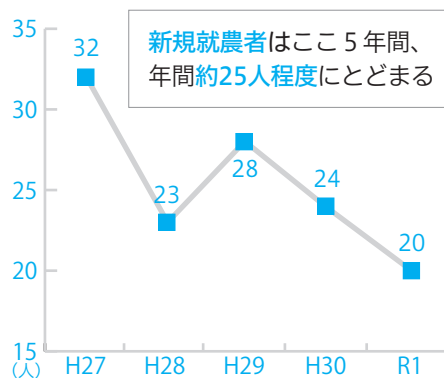
## 2. 担い手の不足 - 離農者の増加と新規就農者の減少 -

① 農業者数(※) (平成17年～27年)



(※) 基幹的農業従事者数  
出典：農林水産省農業センサス

② 新規就農者数 (平成27年～令和元年)



出典：山形県新規就農者動向調査

### 農業の維持・発展には…

- ・ 家業を継ぐ親元就農者
- ・ 新たに農業経営を開始する新規参入者
- ・ 農業法人等で働く雇用就農者 など

将来を担う多様な就農者の確保が不可欠！

地元農業者への支援に加え、**地域外・農業以外**から就農意欲が高い若者を呼び込み、**経営感覚が優れた農業者に育成**することが重要



## SEADS開校

### “自分で考え実践する農業者に—”

県外出身の研修生が多く、彼らは地元農業者とのつながりを求めています。交流することで相乗効果が生まれ、鶴岡の農業が発展することを期待しています。また、多くの研修生が鶴岡に魅力を感じていますが、地域のことを知る機会はずしも多くありません。地域の行事や文化等にとんどん触れ、農業者として鶴岡市民として成長してもらいたいですね。

#### 地域とのつながりを大事に

私は「農業の基礎知識」を担当しています。自ら進んで地域の農業者の元へ見学に行く研修生もいて、学習意欲は非常に高く感じます。自発的に学ぶ姿勢は農業においてとても重要です。栽培方法を身に付けることに加え、自ら計画し実践する農業者を目指してもらいたいです。

#### 研修生の印象

一番の課題は担い手の高齢化です。離農者が年々増加している一方で、新規就農者が少ないのが現状です。その中で、SEADSが担う役割は若者が就農する際のハードルを下げ、将来の担い手を育成することです。技術習得や農地確保、販売・経営手法など、様々な課題に対し2年間のカリキュラムで指導します。

#### 本市農業の課題とSEADSの役割



座学研修講師  
栗田 公司 さん

(JA庄内たがわ、元県園芸試験場長)



# 研修の様子

4月10日にスタートした  
研修の様子をお届けします！

SEADSでは有機農業を中心に、農業の基礎から経営に必要な全てを座学と実践を通じて学びます。1年目は「基礎を幅広く学び、自分が目指す就農方法を考える」をテーマに研修を行います。

## ➔ 座学

農業の基礎知識から経営や関係法令、就農・定住についてまで幅広く学びます。長く農業の教育現場、技術指導の第一線で活躍し、農業の知識が豊富な講師陣等から有機・慣行農業の基礎を、地域の先輩農業者や経営者から経営哲学などを学びます。



## ⬅ 実践

「百聞は一見にしかず」。基本的な農作業から機械操作、栽培管理技術まで、実際のほ場で実践的な研修を行います。

### ■ 1年目

ミニトマトやベビーリーフなどの施設園芸や水稻の現地研修を行い、農作業の基礎を習得します。

### ■ 2年目

品目を各自選択し、目指す農業に沿ったほ場で更なる技術習得を行います。



## ➔ 関係機関と連携した研修

SEADSを会場に県立農林大学校が主催する「働きながら学ぶ農業入門講座」（右写真）にSEADS研修生も参加しています。県農業技術普及課主催の「農業経営実践講座」への参加も予定していて、今後も関係機関との積極的な連携を図っていきます。



## 突撃インタビュー！どんな農業者になりたいですか？

### 鶴岡産農産物を使ったフランス料理でみんなを笑顔にー



小野 翔太 さん (20歳)  
神奈川県出身

農業者を目指すきっかけは農業高校での食品を栽培・加工する部活動です。大豆や小麦を育て、みそやしょう油を作るうちに「食」の魅力に引き込まれていきました。その後調理専門学校に入学し、野菜などの作物を扱う中で一次産業の重要性に気付きました。民間企業から採用の内定をもらっていましたが、「農業がしたい！」という思いがある中で、先生にSEADSを勧められて入校を決めました。

研修中の一番の楽しみは実践を通して野菜の生長過程を見られることです。また、

収穫したミニトマトを研修後に持ち帰り、料理にどうアレンジしていくのか、自分なりに考えるのが楽しみの一つです。

卒業後は農業者になり、生産した農産物を使った料理を提供するオーベルジュ（宿泊施設付レストラン）を経営することが目標です。専門学校で培った調理技術と、SEADSで学ぶ栽培技術を生かし鶴岡産農産物を使った料理で多くの人を笑顔にしたいです。

今後は、農業者だけでなく地域の方との食を通じた交流を増やしていきたいですね。

## スマート農業

営農活動に活用可能な知識と技能を習得！

スマート農業(※1)の基礎知識を学ぶセミナーやドローンによるセンシング(※2)などの実践研修を行い、営農活動に生かせる知識と技能の習得を目指します。

第1回講座の演題は「ICT農業と農業の原点」。SEADS研修生と市内の農業者など合わせて40人が受講し、ドローンを活用した先進技術や基本的な農業技術の重要性を学びました。

今後は水稻生産者を対象とした、より実践的なステップアップコースを7月から12月まで計4回実施。最終回では受講者が自らのほ場分析や来年度に向けた意見交換を行います。

(※1)ロボット技術やICT(情報通信技術)を活用し省力・高品質生産を実現する農業。

(※2)カメラを搭載した小型機械で作物の生育状況を計測する技術。



▲ドローンによるセンシング



▲第1回講座の様子(5月26日)

## 鳥獣害対策 地域ぐるみで持続的な鳥獣害対策を実現！

個々でできる対策を学ぶ **入門コース**

農業者や鳥獣被害対策実施隊、市民が対象。鳥獣の生態や対応策、電気柵の効果的な設置方法等を学び、農作物の被害対策等に生かします。

地域のリーダーを育成 **ステップアップコース**

地域の担い手など、地域一丸での対策に意欲がある方が対象。鳥獣害を防ぐための環境整備や地域ぐるみの対策などを学びます。

## アグリラボ 経費を抑えた先進機器の製作・保守管理技能を習得！

農業ICTの活用を体系的に学ぶ **公開講座**

育苗ハウスの温度をスマートフォンに通知するなど、農業を簡単に効率化、自動化する力を習得します。



講座の内容を基に自動化を実践 **ラボ**

鶴岡高专や企業の技術者が自動化の実践を補助。3Dプリンタなどの機材を利用し、農業者が自ら農業機材等を製作します。

※講義日程、受講者募集などの情報についてはSEADSホームページ(下記参照)をご覧ください。

## 施設案内

### ライブラリー

山大農学部からの寄贈図書を中心に所蔵。農業に関する書籍を閲覧できます。



### ラウンジ

松ヶ岡開墾記念館で保管していた、昔の農機や暮らしの道具を展示しています。



### 交流談話室

研修生と来館者の交流の場としての活用が期待されます。



### 大研修室

シアター形式で約100人を収容。研修や講座等のほか、会合等でも利用できます。



### ●所在地

市内千安京田字龍花山1番地1  
(旧いこの村庄内)



### ●ホームページ

SEADSをもっと知りたい方はこちらから  
<https://tsuruoka-seads.com/>

